

### 3) セタシジミの砂抜き試験

吉岡 剛

【背景】水産試験場でセタシジミの種苗生産に成功し、今後、セタシジミの漁獲量の増加が期待される。

【目的】現在、セタシジミは出荷前に漁業者により、砂抜きが行われているが、出荷後の砂噛みが問題となっている。そこで、有効な砂抜き法を検討した。

#### 【成果概要】

1. 水温一定条件（15℃）での湖水、井戸水、水道水の3試験区において砂抜きを行なった。砂抜き試験水槽に、貝が重ならないように並べ、エアレーションを行った（図1）。
2. 各試験区とも8時間毎に3日間、合計9回サンプリングし、その試料について、砂噛み率を測定した。砂噛み率は、各試験区につき100個を、実際噛んで少しでも違和感のあるものを砂噛みの個体と判断し計数した。
3. 水温15℃においては、湖水、井戸水、水道水の砂噛み率に大きな変化は見られなかった（図2）。15℃では2日間ほどの砂抜きが必要だと思われた。
4. 水一定で水温を15℃、20℃、25℃と変化させた場合の砂噛み率についても測定した。各試験区とも3時間の後、6時間毎に2日間サンプリングした（図3）。
5. 水温25℃では18時間までは貝が口を閉じていたため、あまり砂は抜けなかったが、18～24時間の間に一度に抜け、その後の砂噛み率は最も低かった。20℃、15℃では、20℃のほうが少し砂が良く抜けていたが、3時間で20%程度になり、その後は徐々に抜ける結果となった。

【成果の活用】漁業者における砂抜きは、湖水温が低い時期、ヒーターを入れて15～25℃で砂抜きを行なっているが、有効な砂抜き方法として、はじめから高い温度で砂抜きするよりも水温を徐々に上げていく方が砂抜き効果は高いと思われた。なお、25℃で長時間砂抜きしたセタシジミではうまみの低下が感じられたため砂抜き時の水温は20℃程度までに抑えるほうが良いと思う。

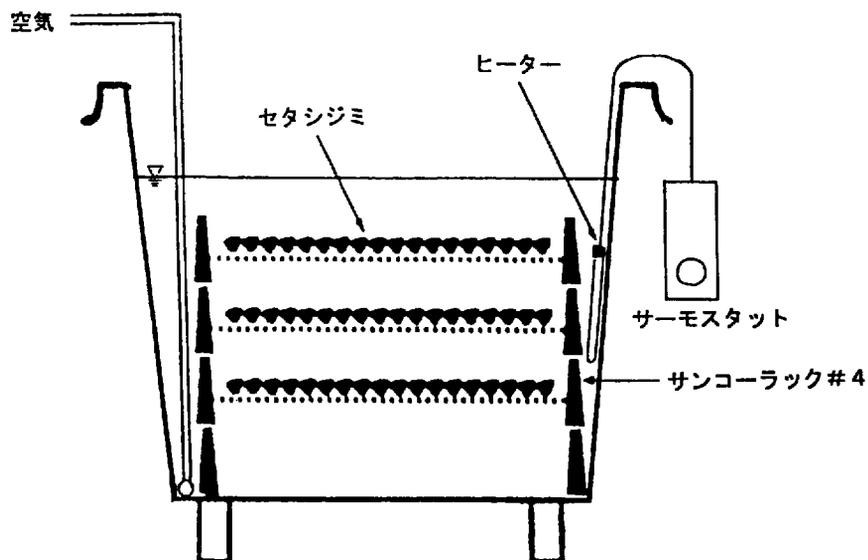


図1. 砂抜き試験水槽

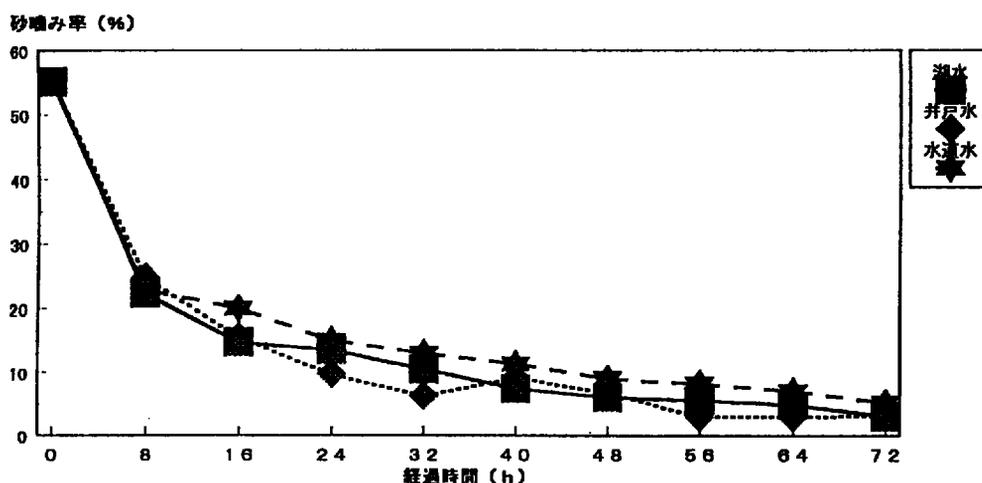


図2. 異なる水における砂噛み率の変化

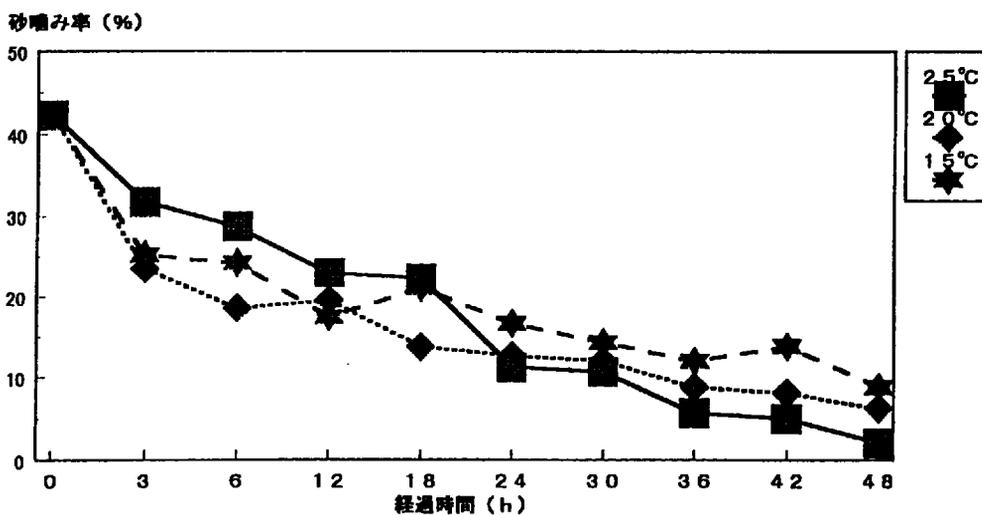


図3. 異なる水温における砂噛み率の変化